

注)団体名略称  
 ・暮らしフォーラムにしにし  
 ・横浜交通まちづくり協議会:まち  
 ・横浜の交通活性化をめざす会:めざす  
 ・横浜にLRTを走らせる会:LRT

モビリティマネジメント推進部会の取組案リスト【既存の取組】

資料2

	既存の提案事項・部会の取組案 (部会委員からの提案に基づき、 部会委員が協働で取り組むもの)	具体的な進め方、意見	部会として果たす役割 平成27年度の実施内容	目的・目指す姿	短期的な取組案/ 中長期的な課題	取組状況
						実施済
1	「バスで行こう！すてきな横浜」ミニ周遊ルートの設定	・バス10社シリーズ化して継続実施 ・ポータルサイトの構築	「横浜バス散歩」をスタンプラリー形式で実施する。	・バス10社シリーズ化して継続実施 ・ポータルサイトの構築	短期的な取組案	・H25/6:横浜市がバス10社にヒアリングを実施 ・H25/11:参加者募集型の「路線バスの旅」を1回実施 ・H26/11:「横浜バス散歩」スタンプラリー実施。
2	短編番組「バスに乗ろう！」製作	バス利用促進ポータルサイトの作成 「横浜バス散歩」を含むバスの使用促進の情報を集めてポータルを構築する。 想定しているコンテンツは以下のようなものである。 － 「バス散歩」に限らず、バスを使いやすくするには等の知恵やトーク番組。 － バスや電車を使つての車椅子でのお出かけコースなど、観光では重要 － バスロケの使い方など利便性向上のための情報 － 高齢者や障がいを持つ方に何に困っているかアンケートして掲載(まち)	委員の具体的な役割分担について、議論する。	バスの利用促進	短期的な取組案	(・H25/11:市民放送局が「路線バスの旅」のルートで動画を製作) (・H26/9:市民放送局が「横浜バス散歩」スタンプラリーのルートで動画を制作)
3	乗継割引運賃制度の新規導入の働きかけ	市交通局に、市バス同士または市バスと市営地下鉄との乗継割引制度の導入をあらためて検討の依頼をする。(めざす) 乗り継ぎ料金をなくすか軽減する提案 TRANSITを進めてほしい。他社線との乗り入れも視野に入れて考える。(小池)	横浜市がバス10社にヒアリングを行う。	「地域公共交通活性化・再生法」で謳われている、交通ネットワークの機能強化を目指す。(めざす) 公共交通の利用促進	中長期的な課題	・H25/6:横浜市がバス10社にヒアリングを実施 ・H26/3:部会委員と交通局との意見交換会を実施
4	企画乗車券の見直しの働きかけ		横浜市がバス10社にヒアリングを行う。	バスの利用促進	中長期的な課題	・H25/6:横浜市がバス10社にヒアリングを実施 ・H26/3:部会委員と交通局との意見交換会を実施
5	路線バス系統番号の改善	現状市営(委託路線を含む)以外の民営バスが使っている「漢字」を接頭にした系統番号を数字のみか、アルファベットを併用した系統番号に至急統一すべき。(塚田)	—	—	中長期的な課題	・H26/2:バス交通部に提案 ・H26/6:横浜市がバス10社にヒアリング実施
6	公共交通利用ガイドの作成	総合的な利用ガイドの充実。当面の対象とする交通モードはバス(コミュニティバスを含む)とし、紙媒体と併せてWEBによる情報提供(各事業者サイトへのリンクを含む)を行う。(めざす)	2. のポータルサイトと合わせて、委員の具体的な役割分担について、議論する。	公共交通の利用促進のため、サービスレベルの向上と共に適切な利用情報の提供を行う。(めざす)	短期的な取組案	
7	バスロケーションシステムについて一般向け解説資料の作成	各社ごとの乗換案内アプリ、バスロケーションシステムを紹介するポータルサイトを開設。将来的には域内の交通事業者を網羅した横浜版の乗換案内アプリを構築。(めざす)	2. のポータルサイトと合わせて、委員の具体的な役割分担について、議論する。	各社ごとの利用情報の提供・周知を図ること、バスの利用促進に繋げる。(めざす)	短期的な取組案	
8	みなとみらい21地区・関内地区での車両通行規制	—	—	—	—	
9	行政・事業者・地域・地権者が地域ごとに集まる場の設置	1、横浜市の各町内会長に対し、PR活動ならびにアンケート協力を行う ※アンケートにて環境負荷削減に対する意識調査・MM活動の認知度調査・バス・タクシー等公共交通機関利用に対する意識調査を行う。 2、上記活動内容を分析し、地域に応じた、MM推進活動の具体的な方法を検討する。(おそらく各地域にて意見内容が異なる為)(浅井)	—	モビリティマネジメント推進のための情報収集(浅井)	中長期的な課題	
10	バスのバリアフリー、ユニバーサルデザイン、環境負荷低減対策についてのヒアリング、アンケートを企画	—	—	—	—	
11	法人対象に路線バスの旅を企画するなど、法人向けのモビリティマネジメントの取組を企画	1、横浜市HP内並びに広報を利用し、各企業が行う(もしくは行おうとしている)MM活動に対するアンケートを行う。 ※アンケートにて環境負荷削減に対する意識調査と、MM活動の認知度を調査する。 2、アンケートの結果を分析し、MM活動の認知度に応じて、推進方法の検討を行う。 ※横浜市として、優れたMM活動を行う企業に対して、表彰などできないか？ ※各企業の行うMM活動の情報共有化を行えないか検討する。 3、各企業の環境推進部など関係者に対して、バス旅行の旅などを企画検討する。 ※一般向けのバス旅行の旅へのスポンサーについても、合わせて検討する。 4、補助金等、資金確保の手法を検討し、利用可能な制度は利用し、MM推進活動をより充実したものにする。(浅井)	イベントを行う際に、イベントへ協賛してくれる企業を探す。	モビリティマネジメント推進のための情報収集(浅井)	中長期的な課題	
12	バス停留所や乗換地点での案内表示の工夫など利用環境改善の提案	・バス部会(または個別バス事業者)とMM推進部会との連携ワーキングの場を設け、案内サインに関する実態の確認や改善事項の抽出、案内表示の標準化などについて話し合う。(めざす) ・バス停の名称統一、案内表示の工夫等を推進。(塚田) ・乗りやすさ向上のための表示(ピクトサイン等)の推進。 全ての利用者がバス乗車方法・運賃支払い方法を判断しやすいような表示を考案し、MM部会として横浜地域のバス事業者に停留所またはバス車両での明示について採用を働きかけていく。(まち)	より具体的な実施内容について、委員から再度提案を行う。	・利用者の公共交通利用への不安感を取り除き分かりやすい利用環境をめざす。(めざす) ・外国人や障害者・高齢者等全ての利用者の乗りやすさの向上。(まち)	短期的な取組案	
		・時刻表をバス事業者ごとに作成するのではなく、一元化してほしい。(小池) ・駅停留所にもバスロケーションシステムに類する何かしらのシステムを入れられないか。(小池) ・バス停留所へのベンチの設置について、PFIのような形での導入を進めるプランを検討してほしい。(小池)	—	—	中長期的な課題	

## モビリティマネジメント推進部会の取組案リスト【新規の取組】

資料2

注) 団体名略称  
 ・暮らしフォーラムにし:にし  
 ・横浜交通まちづくり協議会:まち  
 ・横浜の交通活性化をめざす会:めざす  
 ・横浜にLRTを走らせる会:LRT

新規の提案事項	具体的な内容、進め方、意見	部会として果たす役割 平成27年度の実施内容	目的・目指す姿
1 ゾーン運賃制に向けてのスタディ(塚田)	まずはバスのみでフェリカを利用したゾーン運賃制を導入し、将来的には鉄道を含めたゾーン運賃制を目指す。当初は横浜から関内、石川町エリア等エリアを限定し、最終的には市内全域でのゾーン運賃制の実施を推進。(塚田)		異なる事業者を乗り継ぐ際の初乗り運賃の発生を取り除き、公共交通の活性化を図る。(塚田)
2 東急バス一日乗車券利用による移動実験(浪瀬)	計画を事前に作らず公共交通だけで行きにくい場所へ行って来る実体験をする。(浪瀬)		公共交通を使っでの移動の難しさを実体験する。(浪瀬)
3 モビリティマネジメント教育として「横浜カーフリーデーもしくは横浜モビリティウィーク」を実施(LRT)	NPO法人横浜カーフリーデー実行委員会と連携して、部会と共催で実施する。(LRT)		モビリティマネジメント教育、モビリティマネジメント施策推進。(LRT)
4 モビリティウィークでのシンポジウム開催(まち)	MM部会としてシンポジウムを開催する。(まち)		モビリティウィークに、カーフリーデーだけでなくシンポジウムや政策提言発表など、多彩なメニューを用意する。(まち)
5 廃止の危険性のある路線でのTFP実施(まち)	TFPを生活維持路線等で実施すべきと考える。来年度いきなりTFPを実施するのは難しいと思うので、実施に向けた議論から始めたい。(まち)		
6 ar技術を導入し、バス路線やバス停付近での便利情報や地域情報を提供する。(小池)	ar技術導入でAr用のアプリ開発も同時にアイデアソンを行ってはどうか。(小池)		バスに乗ること以上のバス路線利用の付加価値をつける。(小池)
7 バス利用が楽しくなるアプリのためのアイデアソンを提案。(小池)			
8 バス内での情報提供システムを楽しいものにする。(小池)	デジタル動画表示のサイネージの導入。そこに掲載できる情報の拡大。(小池)		